

# 第66回 宇部市廃棄物減量等推進審議会議事録

・日時 令和4年2月16日(水) 18時30分から19時30分

・場所 宇部市役所 3階 総合戦略局会議室

## ・出席委員

(会長)	樋口隆哉	中野陽一
	田中康司	山中直美
	竹内彩結実	阿部正和
	角野いづみ	木原裕子
	菅野弥生	山本紀子
	小島桂一	熊切泉
	新谷弘昌	

## ・欠席委員

隅田典代	前川由香理	大城明夫
幸恵里	有部正治	亀田能史

## ・事務局

市民環境部長	原田俊宏
市民環境部次長	黒瀬寛文
廃棄物対策課長	上田康次郎
環境保全センター施設課長	田中芳和
環境保全センター施設副課長	植田昌吉
廃棄物対策副課長	中村隆行
廃棄物対策課ごみ減量推進係長	川口修平
廃棄物対策課ごみ減量推進係主任	西田涼子
廃棄物対策課ごみ減量推進係主任	西村純一

## ・資料

- 1 宇部市一般廃棄物処理基本計画(案)
- 2 宇部市一般廃棄物処理基本計画(案)概要版
- 3 宇部市一般廃棄物処理基本計画(素案)に対するパブリックコメントの実施結果

## ・次第、議事録

- 1 事務局あいさつ
- 2 会長あいさつ
- 3 議題
  - (1) 宇部市一般廃棄物処理基本計画(案)について
  - (2) 宇部市一般廃棄物処理基本計画(素案)にかかるパブリックコメントについて
  - (3) その他

事務局	宇部市一般廃棄物処理基本計画（案）概要版・本編の説明、パブリックコメント実施結果の説明
会長	質問ご意見いかがでしょうか。
委員	P7 リサイクル率が30%で推移している状況で、どのようにして目標値の35%を達成するのかご説明いただきたい。
事務局	今後、焼却場の飛灰を資源化するリサイクル技術である山元還元を導入予定であること、更に分別を徹底し、より排出抑制を図ることで減量を図っていく。今後、プラスチック製品のリサイクルも検討し、原単位 840 g の目標値を達成した場合に推計で約 35% になることで目標設定した。
委員	全国の 19.6% のリサイクル率に比べ、宇部市のリサイクル率 30% は高いと思うが、その理由は。
事務局	宇部市は、排出段階で出る資源物（古紙、びん・缶、紙製容器包装、プラスチック製容器包装）のリサイクルに取り組んでいる。これらのリサイクルを実施していない自治体もある。また、焼却灰をスラグにしてリサイクルにしていることも影響して、リサイクル率が高い。県内では平均であるが、全国平均から見ると高い状況である。
委員	類似自治体のごみに関する状況（P3-22）で、人口等の違いもあるが、何が違ってこのような結果となるのか。
事務局	収集ごみに関しては差がないが、直接搬入される事業系のごみ量に差がある。事業系ごみの搬入量が自治体の特性によって全体の原単位の差に表れている。
委員	ごみ減量に関して燃やせるごみの中で、生ごみの比率が高く、生ごみの分別を実施している自治体は一日の排出量が減少傾向にあると思うが、将来的に生ごみの分別を考える余地はあるのか。
事務局	生ごみのリサイクルは、技術の広がりや採算性を含めて総合的に実施可能であると判断されれば、実現する可能性はあるが、今までの実証実験の結果から、課題が多く実現には至っていない。市としても啓発を強化して取り組みが進むように、各家庭への助成制度を進めていく。生ごみのリサイクルは今後も引き続き検討していく。
会長	過去の生ごみリサイクルの検討内容で、どのような課題が浮かび上がったのか、ウェブサイトで確認することができるのか。
事務局	生ごみ実証事業についての結果は、議会報告はしているがウェブサイトへは掲載していない。

会長	過去の審議会では、それに関する報告はあったのか。
事務局	違う部署で実証事業を行ったが、この審議会にて結果報告を行っていた。
委員	本編 3-12 グラフ 美祢市のリサイクル率が高く、理由の記載があるが、宇部市のごみを固形燃料化してリサイクル率を上げる可能性はどうか。
事務局	令和 4、5 年度で次期ごみ処理施設の構想策定を予定している。施設構想では、宇部市のごみ処理の在り方の方向性を燃料化や焼却など、様々な観点から検討していく予定である。
会長	事業系の直接搬入ごみが多いとあるが、本編 P3-43 事業系ごみのごみ質は現状でどの程度把握されているのか。
事務局	事業系ごみに対してごみ質調査はしておらず、概要版 P3 (2) の上グラフ、組成調査を行っている。直搬・収集のごみピットの中を攪拌した上で組成調査を行った結果である。事業系ごみだけでごみ質調査を実施していないので、今後、調査・分析を行い施策展開する必要がある。
会長	P3-43 事業所用資源ごみ拠点回収施設を今後検討されるということだが、どのような拠点回収施設をイメージされているのか。どのような資源物を対象とするのか。事業者側からの要望があつての検討なのか。宇部市のアイデアなのかご説明頂きたい。
事務局	事業系ごみの削減の進め方としては、組成からも紙ごみが多いので、紙ごみを中心に啓発を実施している。更に資源化が進めば燃やせるごみが減らせるのではないかと考えている。リサイクルを促進するため、資源化が可能な事業所の紙ごみは、現状で考えるとミックスペーパー、段ボール、シュレッダーごみなどが対象となる。焼却場に持ち込む前に利便性の高い拠点回収施設を公設で設置し、資源化を促したい。しかし、まだ検討段階であり、事業系ごみを減らすために、今後事業所のアンケートなど行い利用についてのデータを集めて実行に向けて検討したい。
会長	事業者側から要望があつたわけではなく、市として事業者側へ呼びかけたいのか。
事務局	そうである。多量排出事業者に関しては、事業所訪問・アンケート等実施したところ、資源物の回収施設を利用したいと回答している事業者があつたので、検討していきたい。
会長	本編の資料で、今回実施した市民アンケートのクロス集計をみると年代によって傾向が見えてよい。情報の入手法や取り組んでいる内容が世代によって違いがありそうな様子が伺えるので、今回の資料による解析にとどまらず、アンケート結果を生かして知見

	<p>を抽出する作業を継続していただければよいと思う。 事務局から他に何かあるか。</p>
事務局	<p>今後について、本日のご意見を参考に内部で検討を行い、内部手続きを経て、3月議会で報告後、3月下旬に公表する予定であり、委員の皆様へは完成版を送付させていただく。</p>
会長	<p>それでは本日の議題はすべて終了したので、審議会を終了する。</p>